

平成30年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート

【目次】

みんなで支える里山整備事業	・・・	1
里山整備方針作成事業	・・・	2
河畔林整備事業	・・・	3
県民協働による里山整備・利用事業	・・・	
・里山整備利用地域活動推進事業	・・・	4
・里山資源利活用事業	・・・	5
地域で進める里山集約化事業	・・・	6
地消地産による木の香る暮らしづくり事業	・・・	
・「子どもの居場所」木質空間整備事業	・・・	7
・木工体験整備事業	・・・	8
・県産材公共サイン整備事業	・・・	9
薪によるエネルギーの地消地産推進事業	・・・	10
松くい虫被害木利活用事業	・・・	11
里山整備利用地域リーダー育成事業	・・・	12
森林セラピー推進支援事業	・・・	13
学校林等利活用促進事業	・・・	14
自然保育活動フィールド等整備事業	・・・	15
まちなかの緑地整備事業	・・・	16
観光地の景観整備（県単道路橋梁等維持修繕費）	・・・	17
観光地等魅力向上森林景観整備事業	・・・	18
森林づくり推進支援金	・・・	19
みんなで支える森林づくり推進事業	・・・	20
森林（もり）の里親促進事業	・・・	21
地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	・・・	22
地球温暖化防止吸収源対策推進事業	・・・	23

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	みんなで支える里山整備事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性の創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加しており、こうした災害を防ぐための森林整備は喫緊の課題。 また、過疎・高齢化が進む山村地域で里山管理の空洞化を抑制するためには、地域住民等による自立的・持続的な森林の利活用が重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐 概ね4,300ha程度／5年間 地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度／5年間 <p>【取組により期待される効果】</p> <p>間伐材の搬出量の増加、森林整備の実施を通じた防災意識の向上、地域住民の里山利活用の増加</p>

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 未整備の里山のうち、科学的知見に基づき「防災・減災」の観点から優先的に整備が必要な森林の間伐を推進 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備を促進 		
	事業内容	事業主体	事業実績
	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災のための間伐等 県民協働による里山の整備 路網整備 	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	前年度予算間伐 1,112ha 防災・減災のための間伐 115ha 県民協働による里山整備 18ha
			平成30年度決算額
			373,522,600円

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越	321,508					321,508
国費		116,806					116,806	
森林税		295,648					295,648	
合計		733,962					733,962	
ス ト 決 算 額	国費	3,968					3,968	
	森林税	48,047					48,047	
	小計	52,015					52,015	
	前年度繰越分	321,508	\	\	\	\	321,508	内森林税 213,062
合計	373,523					373,523		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な里山の整備利活用 ③ライフライン沿い等の危険木の伐採	①	1,290ha				4,300ha	H29からの繰越を含まない 同上
	②	150ha				1,500ha	
	③	—					
実績値	①	115ha				115ha	R1への繰越1,175ha(外数)
	②	18ha				18ha	
	③	—					

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・集落周辺に位置する森林の多面的機能の回復・維持・増進を図るために間伐115ha(繰越除く)を実施した。</p> <p>・県下5地域の里山整備利用地域において、森林と地域との関係性を再生し、自立的・持続的な森林管理の構築を図るための整備を実施した。</p> <p>(副次的な効果) ・地域における課題解決に資する森林整備に支援することができた。</p>
--------------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 繰越事業の扱いについて、県民が納得できる説明が必要。 計画量に対する現場の事業実施体制は十分なのか。
------------------------	---

3 今後の事業の方向性

	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。	令和元年度から新たに取組みを始めたライフライン等保全対策への対応を含め、地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、現地機関と協力して引続き地域への支援を継続していく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	里山整備方針作成事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	2期10年の森林税事業により、30,852haに渡る里山の森林整備を実施してきたものの、未だ整備がされていない森林が残っている。
目指す姿・成果目標	里山整備方針の作成により、「防災・減災」の観点から優先的に森林整備を要す箇所の見える化を図る。 【成果目標】 里山整備方針の作成 120地域/5年間

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	「防災・減災」の観点から、航空レーザー測量等の科学的知見を活用して、優先的に森林整備を行う必要がある箇所を抽出・点検により明らかにし、方針として図面にまとめ、見える化を図る。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・立木調査、現地調査 ・地域との協議 ・里山整備方針の作成等	・市町村 ・森林整備協議会等 (市町村が参画するものに限る)	補助事業による作成 25地域 市町村の独自作成 57地域	5,374,000 円 [5,374,000 円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0					0
当初予算		25,200					25,200	
補正予算		-16,000					-16,000	
合計(A)		9,200					9,200	
Aの財源	森林税	9,200					9,200	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)	5,374						5,374	
次年度への繰越額(外数)	0						0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①里山整備方針の作成地域数	目標値	①	120地域				120地域	目標値は120地域/5年間 (旧市町村単位)
		②						
		③						
	実績値	①	82地域				82地域	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 55市町村87地域で取り組み、82地域で里山整備方針を作成(5地域は優先的に整備を要す箇所なし) (副次的な効果) ・優先整備箇所を示すことで住民の森林整備に対する関心を高めるとともに、森林整備を通じた暮らしの安心・安全な地域づくりに寄与 ・森林税の取組の見える化
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・里山整備方針を作成した地域により、優先整備箇所を広く設定している所もあれば、森林整備を行う箇所に絞った狭い優先整備箇所を設定している所とが混在している。	・これから取組を始める32地域を支援していく。 ・今年度から新たに取り組むライフライン等保全対策の実施箇所についても、里山整備方針に位置付ける。 ・里山整備方針を作成した地域においても、現地調査を実施する等、引き続き、森林整備の実施に向けて優先整備箇所を精査する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	河畔林整備事業	部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30～R4	E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標					
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	・河川区域外の民地等の立木(河畔林)は、所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、細く倒れやすい木が密生し、豪雨時に倒れ流出し、橋梁部で川をせき止めるなど、水害の発生要因となる恐れがある。
目指す姿・成果目標	・防災強化が必要な河畔林の整備 概ね45箇所程度/5年間(県管理河川)、概ね75箇所程度/5年間(市町村管理河川)

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・防災強化が必要な河畔林のうち、災害時の危険性が高い箇所の河畔林の除間伐を推進			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・河畔林の整備	県、市町村	一級河川の河畔林整備 13箇所 準用河川の河畔林整備 21箇所	83,140,680円 [83,140,680円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越	0					0
当初予算		112,500					112,500	
補正予算		-5,600					-5,600	
合計(A)		106,900					106,900	
Aの 財源	森林税	106,900					106,900	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決 算 額(B)	83,141						83,141	
次年度への繰越額(外数)		20,286						

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①一級河川の河畔林の整備 ②準用河川の河畔林の整備	目 標 値	①	9箇所				45箇所		
		②	15箇所				75箇所		
		③							
	実 績 値	①	13箇所					13箇所	
		②	21箇所					21箇所	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・計画的に事業を実施し、成果目標を達成することができた。 (副次的な効果) ・河畔林を除間伐したことで、農村風景の景観向上や市街地への獣の移動経路阻害対策に繋がる等の効果も見られた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・河畔林の生態系に配慮した選木方法等について、市町村や施工者の参考とするためのモデル事業地の設置を検討されたい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	・事業規模が小さい箇所があったこと等により、予算に対して執行残額が生じた。	・個別事業のフォローアップを実施し、年度計画の前倒し等の調整も行い事業を進める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	県民協働による里山整備・利用事業 (里山整備利用地域活動推進事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	過疎化・高齢化が進む山村地域で里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化の抑制につながるような権利の調整を行いつつ、間伐等の整備を推進することが有効であり、こうした活動を県内全域で展開していくことが必要。
目指す姿・成果目標	住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。 【成果目標】 里山整備利用地域の認定 150地域/5年間

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	里山整備利用地域における地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など、里山の整備・利活用を推進。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	森林を活用した地域活動 (森林の調査、研修会、調査・計画作成等)	里山整備利用推進協議会	16地域	4,744,000 円 [4,744,000 円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0					0
当初予算		9,800					9,800	
補正予算		-3,000					-3,000	
合計(A)		6,800					6,800	
Aの財源	森林税	6,800					6,800	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)	4,744						4,744	
次年度への繰越額(外数)	0						0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定 ②里山整備利用地域活動推進事業を活用した里山整備利用地域	目標値	①	50地域				150地域		
		②							
		③							
	実績値	①	42地域					42地域	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 里山整備利用地域は42地域となった。 認定された16地域では、里山整備利用地域活動推進事業が活用され、森林整備、薪やキノコ生産、遊歩道の整備、竹林整備、森林体験活動、獣害対策等が実施された。 (副次的な効果) 近隣の里山整備利用地域での地域活動に触れ、新たに里山整備利用地域の認定や地域活動に取り組もうとする兆しが見られる。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度は里山整備利用地域の認定に向けた、地域の合意形成に時間を要したことから、事業を活用した地域活動は多くの地域で翌年度に持ち越しになった。 ・里山整備利用地域活動推進事業の実施期間中(各地域3年間)に地域活動を軌道に乗せ、補助金が無くても活動が継続できるよう、長期的な視点に立った活動の展開が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民協働による里山の整備の動きや兆しが見られる地域に対して、地域住民が主体的に参画し、自立的・持続的な活動が展開されるように支援していく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	県民協働による里山整備・利用事業 (里山資源利活用推進事業)	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringvo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 山村地域の里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化を抑制しつつ森林整備を図ることが重要。 住民共同による里山の整備を促進するとともに、木材利用や、教育、観光等の多面的な森林資源の利活用を進める事で、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築していく事が必要であり、資機材の導入支援や遊歩道の整備も必要。
目指す姿・成果目標	里山整備利用地域の認定 150地域/5年間 【取組により期待される効果】 ・間伐材の搬出量の増加、路網整備の促進 ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化、人材育成 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	資機材等の導入(チェーンソー、薪割り機、簡易ウインチ、移動式トイレ等)遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 42地域 事業利用地域 9地域	7,111,000円 [7,111,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越						0
当初予算		33,750					33,750	
補正予算		-26,000					-26,000	
合計(A)		7,750					7,750	
Aの財源	森林税	7,750					7,750	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決算額(B)		7,111					7,111	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定	目標値	①	50箇所				150箇所		
		②							
		③							
	実績値	①	42箇所					42箇所	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・認定利用地域のうち、9地域で里山整備に必要な初期の資機材導入等(薪割り機、簡易ウインチ、ウッドチップパー、刈り払い機、チェーンソー、歩道整備等)に対して、支援を行った。 (副次的な効果) ・里山の利活用を実施していく上で課題となっていた資機材の導入に対して支援を行ったことで、地域住民による里山利活用機会の増加につながった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	平成30年度は、地域認定に向けた取組に力を入れてきてきたことから、本事業を活用しての活動を次年度以降に持ち越した地域も多かった。	各地域の課題を踏まえつつ、里山整備利用地域の活動が自立的・持続的な取組となるように各地域の林業普及指導員が主体的となりアドバイスしながら事業を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地域で進める里山集約化事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringvo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 3-8 生活を支える地域交通の確保				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の小規模個人有林等の整備を効率的かつ効果的に進めるためには、境界の明確化や森林所有者の同意取得を行い、施業を集約化するための条件整備が必要。 ・所有者の不在村化や境界の不明瞭などにより施業の集約化が困難な場合も存在するため、小規模個人有林等の整備を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	防災・減災のために必要な里山の間伐 概ね4,300ha/5年間 地域住民等の主体的な里山の整備利活用 概ね1,500ha/5年間 【取組により期待される効果】 ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加) ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、間伐事業実施地の森林所有者の合意形成等を推進した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・整備が必要な里山等の集約化 ・森林境界の明確化	森林組合、森林所有者の団体等	・里山等の集約化 324ha ・森林境界の明確化 0ha	4,911,000円 [4,911,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越						0
当初予算		14,400					14,400	
補正予算		-9,100					-9,100	
合計(A)		5,300					5,300	
Aの財源	森林税	5,300					5,300	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決算額(B)		4,911					4,911	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な里山の整備利活用	目標値 ①	1,290ha				4,300ha	
	目標値 ②	150ha				1,500ha	
	目標値 ③						
	実績値 ①	1,290ha				1,290ha	
	実績値 ②	16ha				16ha	
	実績値 ③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・防災・減災のための間伐事業を推進するため、324haの森林において集約化を実施した。 ※本事業を使わずに、森林の集約化や森林整備を行う場合もある。 (副次的な効果) ・集約化に向けて地域の合意形成を進めたことで、防災意識の向上及び所有する森林への関心が高まった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・集約化実施面積が近年減少している理由として、集約化が難しい箇所が残ってしまっているとのことだが、どのような対策を検討しているか
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	平成30年度は、第3期森林税において防災・減災のための間伐箇所を抽出するための市町村の里山整備方針の策定が年度後半に集中したため、集約化の実施を翌年度に見送った地域も多い。 事業実施における事務処理の煩雑さや、制度における交付後要件等の理解の不足が事業活用の障害となっている。	里山整備方針の策定、里山整備利用地域の認定が進んでいることから、これらの取組と連携した事業の活用を進める。 当該事業の本体事業である防災・減災のための間伐事業の要件に搬出間伐が追加されたことを踏まえ、制度改正等の周知を図るとともに、この事業の条件整備として集約化事業の活用を積極的に指導・支援する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地消地産による木の香る暮らしづくり事業 （「子どもの居場所」木質空間整備事業）	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）					
8つの重点目標					
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長により良い効果をもたらすとされていることから、児童センターや商業施設のキッズルーム等の「子どもの居場所」の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所の木造・木質化：25箇所／5年間 子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置：150箇所／5年間 <p>【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進</p>

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業主体が運営する保育園・幼稚園・子育て支援センター、複合商業モール・飲食店等のキッズスペース等の「子どもの居場所」について、木造化・内装木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	①木造・木質化(補助率2分の1以内、上限補助対象事業費499万円) ②木の調度品・おもちゃ等設置(同4分の3以内、同50万円)	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①7箇所 ②57箇所	20,578,768円 [20,578,768円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0					0
当初予算		23,750					23,750	
補正予算		-2,500					-2,500	
合計(A)		21,250					21,250	
Aの財源	森林税	21,250					21,250	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)		20,579					20,579	
次年度への繰越額(外数)		0					0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	①	5箇所				25箇所	
	②	30箇所				150箇所	
	③						
	①	7箇所				7箇所	
	②	57箇所				57箇所	
	③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 保育園・幼稚園・児童センター等を中心に、木造・木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置、いずれのメニューも目標の箇所数を上回る実績となった。 (副次的な効果) 市町村や教育委員会が事業主体となることで、1施設あたりの事業規模は大きくないものの、該当市町村内の多数の施設(保育園・子育て支援センター等)に事業を活用していただくことができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの居場所」だけでなく、民間企業のオフィスや観光施設等の木造化・木質化や調度品設置等にも事業を拡大してほしい。 森林税を納税している法人向けの事業メニューが少ない。(森林税活用事業全般への御意見)
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・児童センター等のほか、不特定多数が利用する民間施設での事業実施が全体の約1割に留まった。 第3次まで事業募集を行ったが、1箇所あたりの事業費が少額であることから予算に執行残額が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業周知の強化、事業募集開始時期を早める等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。 森林資源の地消地産を更に進めるために、「子どもの居場所」のみならず、多くの県民が訪れる民間施設・公共スペース等の木質化等を支援する新規事業を検討する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木工体験活動支援事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標					
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長に効果をもたらすとされていることから、県産材と身近に触れ合うための木製品づくり体験を支援していくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・木工コンクール応募者数 5,500人/年 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県内全域の小中学生等を対象とした木工体験活動(木工コンクール、木工教室等)や、小中学校や地域団体が行う木や森への理解を深める木工体験活動を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	① 地域活動型(補助率4分の3以内・上限補助対象事業費105万円) ② 地域活動型(同4分の3以内・同50万円)	① 長野県木材青壮年団体連合会 ② 市町村・学校・林業者団体・NPO法人等	① 木工工作コンクールの開催支援等:1件 ② 県内各地の木工体験活動の支援:25件	6,692,000円 [6,692,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		Aの財源	前年度繰越	0				
当初予算	7,050						7,050	
補正予算	-150						-150	
合計(A)	6,900						6,900	
森林税	6,900						6,900	
国庫支出金	0						0	
その他	0						0	
決算額(B)	6,692						6,692	
次年度への繰越額(外数)	0						0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①木工コンクール応募者数	目標値	①	5,500人				5,500人	
		②						
		③						
	実績値	①	4,608人				4,608人	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 木工工作コンクールには4,608人の応募が集まり、一定の成果を上げることができたが、目標には達しなかった。 (副次的な効果) 子ども主体の活動であるが、付き添いの大人に対しても木工体験の場を提供することができ、県産材利用の意識醸成を図ることができた。
--------------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
------------------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・地域活動型の事業実施件数について、県内10地域ごとの支援件数に格差が生じている。	・特に地域活動型の事業実施が少ない地域での事業周知の強化を図りながら、引き続き県内各地での木工体験活動を支援するとともに、木工工作コンクールへの参加者の増加を図り、県産材利用者の育成を目指す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (県産材公共サイン整備事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出した間伐材等を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・本格的な“インバウンド大県”を目指しているが、県内観光地等の外国人観光客向け案内標識は十分に整備されていない。 ・森林県長野として、観光地や県産材の魅力を国内外に広くアピールしているとは言い難い状況。
目指す姿・成果目標	県産材の魅力を発信しつつ、外国人観光客等の利便性の向上を図る。 【成果目標】 県産材公共サインの設置:250箇所/5年間

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・他県等の先進地における観光地、サイクリングロード、市街地等の主に外国人観光客を対象とした木製案内標識の事例等を調査し、県内に県産材を用いた案内標識を整備するための方針等を取りまとめる。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・先進地における外国人観光客を対象とした木製案内標識の事例調査 ・県産材による案内標識を整備するための方針とりまとめ	県	外国人にも分かりやすい県産材公共案内標識調査報告書	2,837,160円 [2,837,160円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0					0
当初予算		10,540					10,540	
補正予算		0					0	
合計(A)		10,540					10,540	
森林税		10,540					10,540	
国庫支出金		0					0	
その他		0					0	
決算額(B)	2,838						2,838	
次年度への繰越額(外数)	0						0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①県産材公共サインの作成	目標値	① デザイン作成				250箇所	H30年度は調査委託 R元年度以降は補助	
		②						
		③						
	実績値	① 基礎調査						
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 「外国人にも分かりやすい県産材公共案内標識調査報告書」として、木製案内標識の事例調査、案内標識を木製(県産材)にする意義や、設置・管理における具体的方法等を整理。 (副次的な効果) 観光部と連携して事業を進めており、観光部では「外国人にもわかりやすい案内標識の調査事業報告書」として、案内標識の評価や求められる考え方を整理。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・事業実施主体によって、案内標識の表記やデザインが異なる。	・市町村、民間事業者等が観光地等に設置する、複数の言語による案内標識の製作の取組に補助する。 ・長野県公共案内標識整備指針に基づく表記やデザインで、モデル性が高く波及効果が期待できるものを選定する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	薪によるエネルギーの地消地産推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	再生可能エネルギー100%地域をめざし自給率を上昇				
総合的に展開する重点政策	2-2 自立度の高い循環型経済圏づくり				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 木材の地産地消や地消地産を推進する観点で、薪を流通させるための仕組みづくり等により里山資源をバイオマスエネルギーとして活用するための仕組みづくり等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 薪流通の仕組み構築モデル件数:10地域/5年間 【取組により期待される効果】 身近な里山資源である薪が継続的に利用される仕組みを構築することにより、薪のさらなる普及を図り、里山の利活用を促進し、里山の持続的かつ自立的な維持管理を実現する。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	県内3地域において、本事業により薪の流通システム構築への取組を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 薪ストーブ等の需要量調査等 薪の先進地視察等 必要な機材の購入費 各種講習会・セミナーの開催 	市町村、NPO法人、公共的団体、林業者等が組織する団体等	中川村 長野市鬼無里地区 大北地区	3,664,000円 [3,664,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0					0
当初予算		3,750					3,750	
補正予算		0					0	
合計(A)		3,750					3,750	
森林税		3,750					3,750	
国庫支出金		0					0	
その他		0					0	
決算額(B)	3,664						3,664	
次年度への繰越額(外数)	0						0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①薪流通の仕組み構築モデル件数	目標値	①	2地域				10地域	
		②						
		③						
	実績値	①	3地域				3地域	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・目標2地域に対して3地域で事業実施し、目標を達成できた。</p> <p>(副次的な効果) ・地域内資源の把握が進み、活動報告等を行った結果、地域住民の薪利用に関する意識が高まった。</p> <p>・先進地視察、生産コスト調査などを行った結果、問題点、課題の把握ができた。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は目標を達成したものの令和元年度の要望が少なく、各地域での薪利用に向け取組もうとしている事業主体の把握をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、活動を計画している団体の状況を踏まえつつ、事業の計画的な実施を進めていく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	松くい虫被害木利活用事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H30～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益と創造性の高い農林業の推進				
	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	山林に放置され、有効活用されていない松くい虫被害木の利活用が課題。被害木は、水分が少ないため木質バイオマスの燃料チップとしての活用が有効。
目指す姿・成果目標	松くい虫被害51市町村で実施/5年間 【取組みにより期待される効果】 景観を損ねていた松くい虫被害林が整備されることで、他の地域の整備に対する高揚と木質バイオマス資源としての有効活用が促進。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	市町村が行う対象森林の調査、松くい虫被害木の伐倒・搬出、木質バイオマス燃料等の資源化に対する取組に支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・松くい虫被害木の伐倒 ・チップ化施設への伐倒木運搬	市町村	・事業面積:16.76ha ・事業規模:258m3	6,566,000円 [6,566,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0					0
当初予算		18,000					18,000	
補正予算		0					0	
合計(A)		18,000					18,000	
Aの財源	森林税	18,000					18,000	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)		6,566					6,566	
次年度への繰越額(外数)							0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な里山の整備利活用 ③ライフライン沿い等の危険木の伐採	① 10市町村					51市町村	
	②						
	③						
	① 5市町村					5市町村	
	②						
	③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 目標に対する達成状況:50% 松くい虫被害木を丸太で移動する事となることから、松くい虫被害のまん延防止に配慮、アカマツ林施業指針に基づく移動可能期間の制約により、事業実施市町村が限られた。 (副次的な効果) 社会福祉法人と連携した事業の実施(薪の生産) 公園周辺の散策路では被害木を林内へ集積すると、景観が損なわれると危惧していたが、搬出したことで、景観美化に貢献、散策路の開放に寄与した。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	県内の木質バイオマス利用施設が限定的なため、遠方の利用施設への運搬費用が高騰。 地域(里山整備団体等)が主体となって行う場合、林業機械の借り上げに費用を要する。	木質バイオマス発電施設が令和2年に稼働を予定していることから、近隣への運搬が可能となり、引き続き事業を推進。 地域(里山整備団体)が、意欲と能力のある林業経営者と連携することで、林業機械の経費の低減を図り、里山のアカマツ被害木の利活用が期待される。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	里山整備利用地域リーダー育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、森林管理の空洞化も深刻さを増していることから、住民協働による里山の整備・利用を推進することが必要であり、それを支える地域の人材の活用と育成が重要である。
目指す姿・成果目標	森林の整備や多面的利活用を推進するリーダーや多くの関係者をコーディネートする人材を育成するとともに、NPOや自主的な森林づくりに取り組む方々など森林づくりに関わる人々の力を結集し、地域主体の持続的な森林の整備利用を推進する。 ・地域リーダーの育成 概ね150人程度/5年間 ・森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人程度/5年間

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の利活用ややまほいくなど、多様なテーマを設定した研修会を開催した。 ・地域リーダーとなる人材をはじめ、里山管理活動を担う地域住民も参加した安全技術取得のための研修を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	地域リーダー、里山管理人材の育成研修	長野県	研修会 6回	623,160円 [623,160円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越						0
当初予算		2,751					2,751	
補正予算							0	
合計(A)		2,751					2,751	
森林税		2,751					2,751	
国庫支出金							0	
その他							0	
決算額(B)	623						623	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①地域リーダー ②里山管理利用人材	①	30人				150人	
	②	900人				4,500人	
	③						
	①	30人				30人	
	②	220人				220人	
	③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・地域リーダーとなる人材の候補者への研修については、目標の人数を達成することができた。 ・里山整備利用地域の認定が年度後半に集中したため、一部の研修が実施に至らず、里山管理利用人材の育成については、目標数に達しなかった。</p> <p>(副次的な効果) ・里山整備利用地域の認定が進む上伊那、南信州での研修を2月～3月に集中的に実施したことで、地域住民による里山整備の機運が高まるとともに、他地域における認定に向けた動きが見られた。 ・研修生同士のつながりが生まれ、地域が連携した取組に発展することが期待される。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	講座の一覧表を整理するなど関心のある人が参加しやすい工夫をして欲しい。
-----------------	-------------------------------------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備利用地域の認定が多い地域を中心に開催しているため、全県的な動きに発展させていくことが必要。 ・観光や福祉・医療、教育など、里山への多様なニーズが生じており、それらを的確に捉えて、地域づくりに繋げていくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに講師となる人材に対する指導方法などの研修会を開催し、全県で研修会が実施できる体制を整備する。 ・里山への多様なニーズを踏まえつつ、地域の関心の高い内容の研修会とするとともに、多様な主体の参加に配慮する。 ・技術講習(安全)を兼ねる研修会に認定地域以外の地域住民も含めて参加させることで、地域認定や活動の増加を促す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	森林セラピー推進支援事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成、4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	本県の豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、多様な県民ニーズに応え、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。とりわけ、「森林セラピー」は、農林業・観光・医療の各分野の連携が可能であり、森林の利活用と地域の活性化策として期待されている。
目指す姿・成果目標	全国64箇所の基地のうち、県内に10箇所(最多)が所在する「森林セラピー県」として、森林セラピーの利用を促進するため、関連する産業(観光、健康、環境、産業)との連携の強化とセラピー基地等の魅力向上を図る。 ・コーディネーターの育成 10人/5年間 ・森林セラピー基地の整備 10箇所/5年間

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・森林セラピー基地等協議会を開催し、基地間の情報共有を図るとともに、人材育成や施設整備の方向性等の検討を行った。 ・森林セラピーのガイド育成のための研修を行うとともに、基地の安全性と利便性の向上を図るための修景林整備(支障木等の伐採)や歩道・看板等の施設整備を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林セラピー基地等協議会の開催 ・ガイド育成研修 ・施設整備	長野県市町村	・協議会: 3回 ・ガイド育成研修: 6回 ・施設整備: 6箇所	16,662,390円 [16,662,390円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越						0
当初予算		17,521					17,521	
補正予算							0	
合計(A)		17,521					17,521	
森林税		17,521					17,521	
国庫支出金							0	
その他							0	
決算額(B)	16,662						16,662	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①コーディネーター育成 ②森林セラピー基地の整備	目標値	①				10人		
		②	4箇所			10箇所		
		③						
	実績値	①	-					
		②	6箇所				6箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・森林セラピー基地等協議会において、コーディネーター育成メニューを検討。 ・森林セラピー基地の整備は、予定を上回る6箇所において実施し目標を達成した。 (副次的な効果) ・ガイド育成研修及び施設整備の実施により、各基地の利用者受け入れ体制の整備が進んでいる。 ・事業の実施を通じ、森林セラピー基地の利用者の増加(6,500人→7,023人)が図られた。
--------------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・森林セラピーの推進について、地域が偏らないよう全県的に実施してほしい。(H30.9.21県民会議) ・森林セラピー基地で道路標柱の整備を予定しているが、基地以外でも統一的に設置したい(北ア地域会議)
------------------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・質の高い森林セラピープログラムの提供を行うための人材育成が必要 ・施設の老朽化が見られるため、施設整備への要望が大きい。	・H30年度の協議会での検討を踏まえ、各基地の中核的な役割を担うコーディネーターを育成する。 ・質の高いプログラムを提供できるセラピーガイドを育成するため、観光部や環境部等と連携し、多様な分野での人材を活用する。 ・基地毎の事業量も精査しつつ、必要な施設整備を実施する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	学校林等利活用促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	4 学校林等利活用促進事業	実施期間	H30～	E-mail	ringvo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に自然の中で遊んだりする経験が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向があるという調査研究報告があることから、教育における森林の利活用を推進することが必要であり、手入れがされてこなかった学校林については、整備し利活用していくことが必要。 学校林は森林の多面的機能を学ぶ貴重な場であり、身近に森林がある本県の特性を活かし、自然・野外教育を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 長期間未整備のため利用困難な学校林約60箇所程度/5年間の学校林等を整備【取組により期待される効果】 森林を活用した森林環境教育の充実及び安全性の確保

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒が森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりに理解を深めるとともに、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林について、森林税により集中的に整備した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	学校林の整備(除間伐等)	市町村、学校、森林所有者等	学校林の整備等 6校	4,010千円 [4,010千円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越						0
当初予算		12,550					12,550	
補正予算		-8,000					-8,000	
合計(A)		4,550					4,550	
Aの財源	森林税						0	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決算額(B)		4,010					4,010	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①長期間未整備のため利用困難な学校林等を整備	目標値	①	16箇所				60箇所	
		②						
		③						
	実績値	①	6箇所				6箇所	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6校の学校林において、子供が安全に学校林で活動するため、危険木の除去や除間伐、休憩用簡易テントの設置を実施した。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校林の安全性が向上したことで、子供たちが学校林を通じて森林や自然に触れる機会が広がった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する上で、補助残の負担が課題であるならば10割補助にしてはどうか 次世代に向けた森林教育の取組が大切であり、学校教育ばかりではなく、生活の中で子供たちが学べる仕組みを充実してほしい
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<p>新たな取組の初年度であること、また、補助残分の自己負担も必要な事業であることから、事業の計画的な活用に向けて、更なる事業の周知が重要。</p> <p>学校林の整備により、利用できるフィールドが整った地域があるものの、実際の学校林活動に向けては、子供の使うヘルメット等の器具や、指導者が不足している。</p>	<p>初年度の取組の事例を分かりやすい事例集として整備し、事業の周知と計画的な事業実施に向けた要望調査・把握を図る。</p> <p>令和元年度より、ヘルメット等の資機材の導入及び指導者の派遣についても事業化し、支援を行う。</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	自然保育活動フィールド等整備事業	部局	県民文化部	課・室	こども・家庭課
		実施期間	H30～	E-mail	katei-shien@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	合計特殊出生率				
総合的に展開する重点政策	5-4 若者のライフデザインの希望実現				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県独自の制度である「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」による認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境の充実が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 整備が必要な森林を自ら所有又は賃借して使用する認定園等、約25園程度/5年間の整備【取組により期待される効果】 信州やまほいく認定園の増加

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 森林整備(林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理) トイレの設置、チップ敷き、歩道整備等 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 林間整備(危険木の除去等) 歩道整備 付帯施設(トイレ、東屋等)の整備 etc 	信州型自然保育認定園	<ul style="list-style-type: none"> フィールド整備 8箇所 付帯施設整備 2箇所 	4,622,895円 [4,622,895円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越						0
当初予算		5,325					5,325	
補正予算							0	
合計(A)		5,325					5,325	
Aの財源	森林税	5,325					5,325	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決算額(B)		4,623					4,623	
次年度への繰越額(外数)		0					0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
信州やまほいく認定園の活動フィールドの整備 約25園程度/5年間	目標値	①	8園				25園	
		②						
		③						
	実績値	①	9園				9園	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況)	目標を上回る箇所の整備を行うことができた。
	(副次的な効果)	自然保育を行う上で、障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことで、「子どもたちが安全に自然保育を行うことができるようになった。」など感謝の声を多くいただいた。

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	事業初年度のため、事業を実施する期間が十分確保できなかった。	早期の事業募集、交付決定を行い、また広く認定園に対して周知し、積極的な活用を呼びかけたい。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	まちなかの緑地整備事業	部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
		実施期間	H30～	E-mail	toshi-machi@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標					
総合的に展開する重点政策	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 全国都市緑化信州フェアを契機に、市街地においても、木々に親しめる緑地整備を集中的に推進することが必要。 加えて、市街地の緑地は、ヒートアイランド現象の緩和や大気浄化などの生活環境の保全に寄与するとともに、安らぎや癒し効果により快適な暮らしを支え、長野県らしい景観を提供することから、適切な整備が必要。
目指す姿・成果目標	<p>県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度／5年間</p> <p>【取組により期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかに木々を身近に感じられる魅力的な緑地が創出されることによる、都市の魅力の向上。 活動・交流の場としての利用によって地域の元気づくりを推進するとともに、緑化に関する人材発掘・育成等によって持続可能な緑化を推進。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 市街地における木々に親しめる緑地の整備を集中的に推進するため、市町村及び民間団体が行う緑地の整備を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	緑地整備(樹木・芝等の植栽、花壇・ベンチ等の施設整備)	市町村、民間団体	緑地整備 4箇所	1,760,000 円 [1,760,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越						0
当初予算		4,000					4,000	
補正予算							0	
合計(A)		4,000					4,000	
Aの 財源	森林税	4,000					4,000	
	国庫支出金						0	
	その他						0	
決 算 額(B)		1,760					1,760	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①市街地の緑化整備	目 標 値	①	4箇所				概ね25箇所程度
		②					
		③					
	実 績 値	①	4箇所				4箇所
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <p>4箇所の緑地整備を実施し、目標を達成した。</p> <p>(副次的な効果)</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	平成30年度は、箇所数を計画どおり達成した一方、実施箇所が松本市のみとなった。	<p>初年度の成果等を検証し、事業の見える化、他地域への拡大に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業実施事例をホームページ掲載等により広報する。 事業者にアンケート等を行い、事業の改善点を把握する。 市町村に制度の説明や事例を紹介し、事業の活用を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	観光地の景観整備(県単道路橋梁等維持修繕費)	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	H30～	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 ・地域の景観に合致した街路樹の整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間【取組により期待される効果】 ・観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上 ・街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格保有者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施する。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	観光地周辺の街路樹整備	県	街路樹整備 14km	16,000 千円 [16,000 千円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0					0
当初予算		16,000					16,000	
補正予算		0					0	
合計(A)		16,000					16,000	
Aの財源	森林税	16,000					16,000	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)	16,000					16,000		
次年度への繰越額(外数)	0					0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①街路樹整備	目標値	①	10km				10km	
		②						
		③						
	実績値	①	14km				14km	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国営アルプスあづみの公園や白樺湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地周辺の街路樹整備による成果の検証、より一層の事業推進を図る。 ・更なる森林づくり県民税の周知及び理解の推進に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地魅力向上のため、周辺の街路樹整備を推進する必要性が高まっており、可能な範囲で予算を拡充して対応したい。 ・地域住民や観光関係者へのアンケート等を通じて成果を検証するとともに、ホームページ等の広報を積極的に行い、広く周知に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	観光地等魅力向上森林景観整備事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した間伐の実施や、地域の特性・ニーズに合わせた間伐、除伐、竹林整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の景観に合致した間伐等 概ね延べ110ha程度/5年間【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図る。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 景観整備 ビューポイントの樹木の伐採 	市町村	11箇所計11haで事業を実施	7,605,000 円 [7,605,000 円]

事業	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0				
当初予算	7,605						7,605	
補正予算	0						0	
合計(A)	7,605						7,605	
Aの財源	森林税	7,605					7,605	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決算額(B)		7,605					7,605	
次年度への繰越額(外数)		0					0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①街路樹整備	目標値	①	17ha				110ha		
		②							
		③							
	実績値	①	11ha					11ha	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・景観を阻害している高木性樹木の伐採への要望が予算を大きく上回って寄せられ、主要観光地で懸案となっていた景観の改善・回復のための伐採が進んだ。</p> <p>(副次的な効果) ・観光地としての魅力が向上しただけでなく、地域の関係者にとっても里山に改めて関心を持つきっかけとなっている。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光地の森林景観とは別に、高速道路沿線を中心に松くい虫被害木(枯損木)が景観を著しく損ねており、観光客等に与える印象の観点から改善を望む声大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から予算を拡充し、高速道路沿線の枯損等の伐採を集中的に進めるとともに、地域の景観整備のニーズへの対応を図っているところ。 引き続き地域の景観改善に資する森林整備を通じ観光地の魅力向上を図っていく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	森林づくり推進支援金	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	5 市町村に対する財政調整的視点での支援				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じて市町村が行う森林整備等の取組が不可欠。 ・森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、財政調整的な支援は不可欠。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること。 【取組により期待される効果】 ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上 ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	森林に関する各地域の様々な課題解決のために市町村が独自に行うきめ細やかな仕組みを支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行う。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数 77市町村	89,978,000 円 [89,978,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越	0					0
当初予算		90,000					90,000	
補正予算		0					0	
合計(A)		90,000					90,000	
Aの財源	森林税	90,000					90,000	
	国庫支出金	0					0	
	その他	0					0	
決 算 額 (B)		89,978					89,978	
次年度への繰越額(外数)		0					0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①街路樹整備	目 標 値	① 77市町村				77市町村		
		②						
		③						
	実 績 値	① 77市町村					77市町村	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助事業対象とならない松くい虫対策や、野生鳥獣害防止のための緩衝帯整備等、各地域の様々な課題に応じた独自の取組が全ての市町村で行われた。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における地域課題の検討や、課題解決のための取組及びその内容についての情報発信に一定の進展があった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村自ら行う検証・評価の内容について、地域会議や県民会議でどのように確認し議論すべきか。 ・市町村が行っている検証・評価の中には漠然としたものもあるので、できるだけ客観的な評価に努めるべき。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が事業実施後に行う検証・評価については地域会議の意見を聴くこととしており、それにより各市町村の取組が地域の課題に即してより効果的なものとなっていくことが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の創意工夫による事業が効果的に実施されるよう、計画作成時、事業実施時及び検証・評価時のそれぞれにおいて指導、助言を行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	みんなで支える森林づくり推進事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県民アンケートでは、森林税の用途が分からないと回答した方が73.5%に及び、特に若年層の理解が広がっていないことから、より積極的かつ効果的な広報が必要。 チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 森林税の用途の認知度30% 【取組により期待される効果】 森林税活用事業を活用した取組の増加

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット、SNS、ラジオ、子育て情報誌等による広報及び森林税の見える化を図るため地域の実情に応じた広報・普及啓発を実施。 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して、意見を聴く県民会議及び地域会議を開催。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット、ラジオ等でPR 各地域の広報誌・イベント等でPR 県民会議、地域会議の開催 	長野県	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット30,000部作成 ラジオ番組(AM,FM)を10回放映 県民会議3回、地域会議20回開催 	8,489,129円 [8,489,129円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越						0
当初予算		10,000					10,000	
補正予算							0	
合計(A)		10,000					10,000	
森林税		10,000					10,000	
国庫支出金							0	
その他							0	
決算額(B)	8,489						8,489	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な里山の整備利活用 ③ライフライン沿い等の危険木の伐採	目標値	①	30%				30%
		②					
		③					
	実績値	①	45.5%				45.5%
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・平成30年度に実施した県政モニターアンケート(速報値)によると、森林税の用途の認知度は46%と目標を大幅に上回った。 (副次的な効果) ・県民会議、地域会議、若者等、様々な方と意見交換を行った中で、そうした方が森林税の情報を発信するようになり、森林税広報のチャンネルが増えた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ロゴやキャラクターの作成過程に県民が関与する仕組みを設け、森林税を身近に感じる機会としてはどうか。 資料の数字を出来るだけグラフ化することで、県民にも分かりやすい資料になるのではないかと。 小さな子ども達に森林の大切さを学ばせるような広報を行えば、将来的な認知度向上にもつながるのではないかと。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、森林税の認知度を向上させるための取組を継続する必要がある。 特に認知度が低い傾向にある、若者や女性の認知度を高めるための広報が必要。 先行地域の取組の成果を他地域に波及させることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、SNS等を活用して、若者や女性の認知度を高めるための広報を実施する。 取組の進捗に合わせ、個別事業の具体的な成果をPRすることで、森林税を身近に感じることが出来る広報に努める。 民間のアイデアを取り入れ、訴求力の高い広報に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	森林(もり)の里親促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H15～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	近年、温暖化防止等の社会貢献や、福利厚生などを目的とした企業の森林づくりへの関心が高まっていることから、こうした企業による森林づくりを推進し、森林整備や都市部と山村の交流、森林への理解の促進を図ることが効果的である。
目指す姿・成果目標	県が仲介役となって、森林づくりへの参画を希望する企業のニーズに応じて地域とのマッチングを行い、「森林(もり)の里親」契約を締結する。 ・企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約の締結の掘り起こしに向けて企業訪問や首都圏での企業向け講座を開催した。 ・企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との現地調査等(8回) ・契約前のプレ活動(3回) ・企業向け講座の開催(1回) 	長野県	新規契約 5件	748,878円 [748,878円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越						0
当初予算		1,002					1,002	
補正予算							0	
合計(A)		1,002					1,002	
森林税		1,002					1,002	
国庫支出金							0	
その他							0	
決算額(B)	749						749	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①新規契約件数	目標値	①	5件				25件	
		②						
		③						
	実績値	①	5件				5件	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 企業のニーズに応じて、県が仲介役として地域の選定や受け入れ体制の調整を行うことで、目標の5件の契約を達成できた。</p> <p>(副次的な効果) 企業との連携により森林づくりを行うことで、企業の社員と山村地域との交流を促すとともに、地域住民にとっても森林づくりに関心を持つ契機となった。</p>
--------------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
------------------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・累積契約件数が増加するに従い、里親となる企業のニーズに合った整備候補地選定に時間を要する傾向が強まっている。 ・全国的に同様の事業を実施しており、個々の企業への働きかけだけでは、新規契約を確保することが困難な面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備利用地域も含め、地域が主体的な活動を展開している地域を中心に、新たな受け入れ団体の掘り起こしを行う。 ・個々の企業に加え福利厚生団体など、多様な企業が参画している団体への働きかけを行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標					
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 県産材を使うことが地球温暖化防止につながることを広くPRすることが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 個人住宅や企業等の木質化でのCO2固定量の認証量:500t-CO2/年 【取組により期待される効果】 県産材利用の促進

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	県産材を使用した住宅や事業所の木造・木質化、木製品の二酸化炭素固定量を認証し、認証証書を発行。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	県産材住宅の施主や店舗等を木造・木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を認証。	県	認証量 354t-CO2 (認証件数 9件)	234,644円 [234,644円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0				0
当初予算		565	567				1,132	
補正予算		0					0	
合計(A)		565	567				1,132	
Aの財源	森林税	565	567				1,132	
	国庫支出金	0	0				0	
	その他	0	0				0	
決算額(B)		235					235	
次年度への繰越額(外数)		0					0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2認証固定量	目標値	① 500t-CO2	500t-CO2				
		②					
		③					
	実績値	① 354t-CO2					
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 平成30年度の実績は前年度の実績(認証件数6件、認証固定量160t-CO2)を上回ったものの、単年度の目標値を下回った。(※令和4年度まで5か年の成果目標は設定なし)</p> <p>(副次的な効果) 認証を受けた企業が環境貢献の一環として広報することにより、認証制度や木材利用の普及につながった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 本制度による認証取得が事業採択要件である「木造公共施設整備事業」の実施件数の減に伴い、認証の申請件数が減少。 工務店や県民等に制度が十分に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 認証制度審査委員会を認証制度推進会議に改め、審査機関からアドバイザー機関に位置付けを変更。 認証制度推進会議の御意見もいただきながら、県内外における本制度や木材のCO2固定の役割のPR等の制度の普及・啓発を強化し、申請件数の増加を図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（平成30年度事業分）

事業名	地球温暖化防止吸収源対策推進事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として取り組もうとするニーズが高まっている。
目指す姿・成果目標	・間伐等の森林整備によるCO2吸収量の評価方法を定め、企業等の森林整備活動をCO2吸収量で知事が評価・認証することにより、一層の企業等の参画による森林整備を促進する。

2 事業の実施状況

平成30年度の実施状況	・民間企業等のCSR活動を「見える化」するため、「森林(もり)の里親促進事業」で間伐等を実施した森林のCO2吸収量を県が評価・認証する。			
	事業内容	事業主体	事業実績	平成30年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林のCO2吸収量認証	県	・CO2吸収量認定量 2009.8t-CO2	128,504 円 [128,504円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越						0
当初予算		471					471	
補正予算							0	
合計(A)		471					471	
森林税		471					471	
国庫支出金							0	
その他							0	
決算額(B)	129						129	
次年度への繰越額(外数)								

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
目標値	①	4,000t-CO2						
	②							
	③							
	実績値	①	2,010t-CO2				2,010t-CO2	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 実績は目標の吸収量を下回る結果となったが、H20より継続して行われている事業であり、森林(もり)の里親企業等に対しある一定の認知が図られてきていると考えられる。</p> <p>(副次的な効果) 本認証制度活用により、企業等は、CSR報告書への記載やPRが可能となり、企業等のイメージ向上につながられる。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	今後も、引き続き森林(もり)の里親企業等に対し、制度の認知・普及の促進を図りながら事業を進めていく必要がある。	「森林(もり)の里親」企業等を対象に、森林の大切さや、森林の二酸化炭素が地球温暖化防止に果たす役割等に関する普及啓発を行い、「森林CO2吸収評価制度」の活用促進を図る。